

第4章 意識調査結果

1. スポーツに関する市民・団体等意識調査

第2期神栖市スポーツ振興基本計画を見直すにあたり、市民のスポーツ等の実施状況や施設に対する要望を把握することを目的に、市民（18歳以上の市内在住者）及び市内スポーツ団体等を対象としたアンケートを実施しました。アンケート結果の詳細は、資料編に記載しています。

2. 調査結果からみえる課題

（1）市民意識調査

◆課題1 スポーツ施設の整備・改修

本市のスポーツ施設の満足度については、「やや不満」、「不満」と回答した人が20.3%となっており、その理由について多かった項目は、「施設の設備」（50.0%）、「その他」（18.5%）、「利用料金」（11.1%）となっています。「その他」の内容には、「施設の劣化」、「空調設備がほしい」等の施設設備への意見が多く見受けられます。

また、自由記述においても、「冷暖房等の設備が充実している施設が少ない」、「運動施設の老朽化の改善」、「スポーツ施設に無料の給水スポット等あったらいい」等の意見が見受けられます。施設の改修においては、長寿命化計画に合わせて市民ニーズに沿ったものとなるよう検討していく必要があります。

◆課題2 プロスポーツ試合、国際大会の誘致

◆課題3 地域スポーツチームのPR活動

今後参加してみたいスポーツイベントは、「プロスポーツ選手との交流・試合観戦」が30.1%と最も多いとともに、今後の本市としての取り組み方では、「プロスポーツの公式試合、各種スポーツ大会や合宿、催し物を開催し、多くの観戦者、参加者に訪れてもらえるような取り組みを進めるべき」が27.8%を占めています。また、競技会場で観戦したいスポーツでは、「サッカー（J1、J2、J3、日本代表）」が33.1%と最も多く、次いで「国際大会」が28.9%となっています。

本市と協定を結ぶプロスポーツチームの知名度では、「1～2チームは知っている」が57.8%と最も多く、次いで「全て知っている」が34.4%であり、「応援しているチームがある」は6.0%にとどまっています。

今後は、スポーツツーリズムの考え方を視野に、市内外の参加者（スポーツを「する」）や観戦者（スポーツを「観る」）の増加による地域の活性化を目指し、市内のスポーツイベントやプロスポーツ試合、国際レベルの大会の開催と地元スポーツチームのPRを推進していく必要があります。

◆課題4 スポーツに関する情報提供の充実

◆課題5 スポーツに関連するボランティア活動の普及

スポーツに関連するボランティア活動を行ったことがない理由は、「ボランティアに関する情報が入手できない」が23.5%と最も多く、スポーツ・運動に関する広報や情報提供では、「もっと情報提供を行ってほしい」が58.6%となっています。

また、どのようなボランティア活動を行いたいかについては、「スポーツイベントのボランティア・スタッフ（スポーツ大会・地域の運動会等の不定期な活動）」が71.4%と最も多くなっています。

このことから、引き続き、広報紙や市ホームページ、SNS等で積極的に情報発信を行っていくとともに、今後は、スポーツに関連するボランティア活動の場を創出する必要があります。

◆課題6 インクルーシブスポーツ※の普及啓発

インクルーシブスポーツの経験の有無については、「ない」が91.7%と最も多く、普及につながると思う取り組みについては、「身近な場所で体験できる機会を増やす」が74.4%と最も多くなっています。

今後、年齢や障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツに参画できるような社会の実現や気運の醸成を図る必要があります。そのため、インクルーシブスポーツを体験していただく機会を増やす等、普及啓発につながる取り組みを検討していく必要があります。

※インクルーシブスポーツ：障がいの有無や年齢、性別、文化的背景等に関わらず、誰もが平等に参加できるスポーツ
例 車椅子バスケットボール、ボッチャ、モルック等

◆課題7 スポーツ施設の利活用

今後、整備が必要とされるスポーツ施設については、「体育館（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球等）」が51.1%と最も多く、次いで「ジョギングコース・ウォーキングコース等」が35.0%となっています。

また、1年間に行った運動・スポーツ種目では、「ウォーキング」が32.0%と最も多く、次いで「バレーボール」が27.1%、「バスケットボール」が13.5%となっています。

このことから、室内競技種目とウォーキングのニーズが高いことが伺えます。今後は、「体育館」や「ジョギングコース・ウォーキングコース等」の整備に加え、スケートボード、BMX等の新たなニーズに対応する運動施設の整備も検討する必要があります。

(2) 団体等意識調査

◆課題1 会員獲得のための方策と団体支援

各団体の運営上の課題では、「メンバーの確保」が78.6%と前回と同様最も多くなっており、本市として取り組むべきことでは、「スポーツ団体の活動に対する支援」が48.8%と最も多くなっています。スポーツ団体は、本市におけるスポーツ振興に必要であることから、引き続き会員獲得のための方策を含め、団体支援を行っていく必要があります。

◆課題2 体育館等の屋内スポーツ施設の充実

各団体の運営上の課題において、「活動場所の確保」が48.8%で前回と比べると最も増加しています。また、利用している本市のスポーツ施設では、順に「神栖市民体育館」、「かみす防災アリーナ」、「神栖市武道館」、「土合体育館」、「波崎体育館(弓道場含む)」と続き、体育館等の屋内スポーツ施設の需要が高いことが伺えます。

さらには、今後整備・充実が必要な市スポーツ施設として、「体育館」が77.4%と最も多く、今後、本市として取り組むべきことでも、「学校体育施設の開放(42.9%)」が2番目に多くなっています。

体育館等の屋内スポーツ施設のニーズが高いことから、施設の充実を図るとともに、学校体育施設を利用する学校開放事業や部活動の地域展開等、スポーツ施設を利用する事業の効率的な方策等を検討し、利用しやすい環境づくりが必要です。

◆課題3 大会イベント等の充実

今後本市として取り組むべきことでは、「初心者向けスポーツ教室の充実」が前回より17.7%と著しく増加しています。

また、“今後、本市として取り組むべきこと”については、前回最も多かった「健康・体力づくりの推進」が6.6%の減少傾向にある一方で、各団体の“活動の目的”では、「競技力の向上」が59.5%と前回と同様最も多く、次いで「健康の保持・増進」が58.3%、「競技の普及・推進」が50.0%と続いています。新型コロナウイルス感染拡大に伴う健康増進への意欲向上とともに、健康増進から競技への意欲が増加しているとも読み取れます。

今後は、初心者向けスポーツ教室等のスポーツを始めるきっかけに関する取り組みや、大会イベントの開催等スポーツに関する活動の場の提供を検討していく必要があります。

◆課題4 中学校の休日部活動の地域移行への対応

中学校の休日部活動の地域クラブ活動への移行にあたっての意見として、指導者の負担の増加や育成に対する支援の充実、また平日と休日で異なる活動となる生徒の部活動へのモチベーション低下に対する懸念等の意見が多く寄せられました。今後は、これらの不安を解消し、中学生や地域のより良いスポーツ環境を築くとともに、スポーツ団体がより参画しやすい制度設計を構築していく必要があります。